

2017/2/20

## (日々雑感 22)



ひとや社会の言うこと、求めることは何も聞かないし、遣りもしない。する気も全くない。

反面、自分の言うこと、求めることは全て聞け、やってくれで押し通す。

聞かない、しないの一方で、聞け、やれ、の要求が一つでも満たされないと、人が悪い、社会がおかしいと言い出す。

それでもひとや社会が完全に自分の要求を満たさないとき、一つでも欠けたとき、やおら開き直って暴れるか、そこまで行けない者は、すねる。すねまくる。

「ふん、何も分かってないくせに」という斜に構えた姿を気取りつつ、実際は

「ヤダヤダ、ぼくの（わたしの）言うこと聞いてくんなきゃヤダ！！」が本音。

あるいは、人のテリトリーにずかずかと土足で入り込んできて、さんざん踏み荒らしたり、暴言を吐いたりする反面、こちらが遠慮しながら、そろりと相手のテリトリーに一歩でも入ろうものなら

「侵害だ、押しつけだ、侵略だ！！」と大騒ぎをする。

完全に、自分がセンターと見なした、バランスを欠いた線引きを「中立」と称してはばからない、ではなくて、疑わない。疑っていない。

それを、

わがまま。

自己中。

甘ったれ。

と言う言い方もありますが、それよりこれは、

世の中に100%が存在するという御認識、または

完全に何かをはき違えた完全主義、完璧主義

のなせる技だからだ、と見なした方が良いような気がします。

観察すると、本人に悪意があるようではないのです。恣意的にねじ曲げているようでもな

いようです。ただ、何かを完全に勘違いしているか、はき違えている「誤認識」  
自分一人なら100%はあるかもしれません。自分が1で相手が0だから100%。  
しかし、社会ですから、他に人が最低一人はいるわけです。  
100を仮の上限とすれば、どんなに頑張ったって、99対1で100%にはならないの  
です。あり得ないのです。  
そのあり得ないものを求めて、満たされないと騒いでいるのは、逆に本人の不幸な認識と  
しか言い様がありません。  
加えて、あり得ないものを求めて、死ぬまで時間を空費し、あり得ない理論や行動、言動  
をくり返すものですから、理解する人がなかなか現れずに孤独にもなっています。  
この無意識に生まれた「不幸な誤認識」の生み出す、無駄で無益な「時間の空費」に早く  
気づいて、最大の努力を払って、可能な限り速やかに、修正した方が良いような気がしま  
す。ご本人のためにも。

## (日々雑感 23)



アタマの作り（出来ではありません）、あるいは作り方が良いと、こころとの間の摩擦が  
少なくて楽になります。  
アタマを理性と言ったり、こころを感情と言ったりもします。  
ちょっと難しい言い方をすると、アタマを顕在意識、こころを潜在意識と呼ぶこともまま  
あるようです。  
こころや感情、潜在意識、特に潜在意識という言い方をした場合、その潜在意識について  
はまだ未明なところが多々あり、解明できていないところも多いので、上手くコントロ  
ールできる方法が見つからないのが実情です。  
仮に我々現代のひとが、手を出せる、手を着けられるとすれば、せいぜい顕在意識、理  
性、アタマの部分です。  
ですから、このアタマの作りを、こころや感情、潜在意識の声なき声に耳を傾けて感得

し、あまりそれから、かけ離れたり、それを欺いた嘘の上に作り上げたりしないようにすることが、とても大切だし、日々違和感や苦しみが少なく暮らせる、つまり楽に暮らせる元になると思っております。

それというのも、顕在意識がいきる前の元々の潜在意識というものは、ぼくの見立てでは、元々生命体が命を楽しむように、つまり元気になるような作りになっていると思うからなのです。

## (日々雑感 24)



以下は全くの個人的な感想です。

客観性はないのかもしれませんが。

早いもので、今日でこのように、寄る辺ない身の上となって一ヶ月丁度。

その間、支えになってくださったのは、男の人では60歳以上の退職された方々、女の人では、主に20歳代前半の社会に入る前か、入ったばかりの若い方々でした。

無論何か物理的な援助や供与、供応をしてくださったということではありません。言葉には直接は表れないが、かえってそのことが心の支えになったということです。

言い換えれば、その人達は、男であれば、かつての「責任世代」であり、女の人であれば「これからの人たち」です。

反面、年配の女の人たちと現役世代の若い男の人たちは、どちらかというともあまりそうではありませんでした。あくまでも「あんまり」くらいです。

そこから自分が勝手に類推したのは、この支えになってくれたひと達のクラスターの掛け合わせと、どちらかというともあんまり支えにはならなかったような気がするクラスターの掛け合わせは、何かを暗示しているのではないだろうか。

強引な仮説であることを感じつつも、敢えて怖れずに言うとしたら、前者のクラスターの掛け合わせは、かつての責任世代の「責任感」みたいなものが、どういう経緯でそうになっているのかは上手く説明できないものの、何らかの理由で、一部の若い女の人に受け継がれ始めている（現在進行形）のではないかと。ということ。

反対に、後者の掛け合わせは、現在年配の女の人たちがあまりに面倒見が良すぎたか、強すぎたために、思いやりが仇となり、却って現役の若い世代の男性をスポイルする結果に

なっていた（過去完了形）のではないだろうか？ということですが。  
そうしてその差が、今回の自分の身の上に「支えなる」か否かと言う形で現れ、それをなんとなく自分が感じたということなのではないかと。  
この類推に深い根拠はありません。単なる直感に近いものです。が、ふっと、なにかピンとを感じるものがあったのです。  
これはあくまでも傾向の話で、無論例外は多々ありますが、現在の若い世代の女高男低傾向は、何かそんなところに起因してはいないでしょうか？  
とにかくここ一ヶ月で自分たち世代の経験を語り継ぐ重要な相手のひとつは、そうして、それを活かして次世代をになうのは、現時点では、間違いなく若い女性の方に、その可能性が大なのだとすることを肌身で実感した次第です。無論、親の手のかかりすぎていない「ちゃんとした」若い女性の方達に限ってのことですが。  
確かに、今弱まっている若い男性の方に力を注いで立て直しを図ることの方が大切だという考え方もあるでしょうが、残念ながら我々にはそこまで時間が残されていません。  
ですから、この平成年間最後の時期に於いては、我々世代が取り得るやむを得ない選択なのだとわざるを得ないのかもしれないかもしれません。  
それ故、若い男性世代の方々は、今後自力でなんとかして頂きたいと願うばかりです。

## （日々雑感 25）



これが家のスタンドバーです。立ち飲み専門です。

種明かしをすれば、何のことはない、たばこを換気扇の下で吸う場所が、借間の入り口脇の靴箱のそばなので、その靴箱のデスクトップを、スタンドバーにしてみただけのことなのです。

まあ、偶然の産物です。

でも、思いつきの割には結構気に入ってます。

日本国国民として、いかなる場所、いかなる場合においても、享受して然るべき、憲法で保障された、生来付与の権利「健康で文化的な生活」の一端です。

「ウトキュウズ・バー」です。